

平成31年3月14日

下野市議会議長 秋山幸男 様

議会運営委員会

委員長 松本賢一

議会運営委員会視察報告書

議会閉会中、当委員会の視察を実施しましたので、その結果について報告いたします。

記

1. 視察期日及び視察地

平成31年1月29日 広島県坂町立町民交流センター
1月30日 広島県呉市海事歴史科学館

2. 参加者

委員長	松本賢一	副委員長	大島昌弘
委員	磯辺香代	委員	岡本鉄男
委員	村尾光子		
議長	秋山幸男	副議長	石田陽一

3. 視察事項

広島県坂町立町民交流センターの整備及び維持管理について
広島県呉市海事歴史科学館の運営及び周辺整備について

4. 視察内容

(1) 広島県坂町立町民交流センター（サンスターホール）

坂町では、築50年の町民体育館の更新にあたり、防災拠点の機能も持たせた多目的に活用できる施設の計画作成を検討した。平成26年9月に完成した体育館アリーナは移動観覧席が設置されており、1,210席のホールとして使用することも可能で、スポーツと併せて芸術文化施設の機能を有する。使用目的ではスポーツと文化の割合が8対2という状況である。

建設費は約16億円で社会資本整備総合交付金等を活用した。また、年間運営経費は約4,600万円である。サンスター株式会社とネーミングライツの5か年契約を締結し、愛称は「サンスターホール」とした。町は毎年500万円の命名権料を受け取り運営経費に活かしている。

建設にあたり、地元住民福祉議会・女性会連絡協議会、広島工業大学、広島県芸術文化課等による整備事業者選定委員会を設置し検討を行い、市民意見については体育団体、文化団体からの要望を取り入れた。また、議会においても整備事業検討特別委員会を設置し広く調査研究を行った。

防災拠点としては、備蓄倉庫に2,000人が3日間生活できる飲料水・食糧を確保するほか、雨水貯留槽、自家発電設備、非常用かまどベンチ、ソーラー街灯、マンホールトイレ、蓄電池式太陽光発電システム(100Kw)などを完備している。

平成30年7月豪雨による災害対応のため、7月6日から9月14日まで避難所として開設し、避難者466人を受け入れた。その後も避難勧告、避難準備等で7回避難所を開設し、避難者延べ約900人を受け入れた。

しかし、当施設も浸水被害に遭ったため、1階については現在、復旧工事中であった。

坂町の施設は比較的安価で複数の目的を達成できる合理的なものであった。

以上が、広島県坂町町民交流センターにおける整備及び維持管理の状況である。

(2) 広島県呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

呉市海事歴史科学館は、平成17年4月23日の開館以来、平成28年5月末には約1,100万人の来館者があり、呉市の博物館としてだけでなく、日本の博物館として広く認知されている。

来館者の年齢層も幅広く、戦艦大和に乗っていたという方から家族連れ、小中

学生の団体等が館内を熱心に見学している。館内には、呉市の軍港としての発展や日本の産業技術発展の歴史が展示されており、当時、世界最大であった戦艦大和や各種潜水艦等の製造を行っていた最先端技術の拠点であったことが理解できた。面白いだけの展示ではなく技術・戦争・平和といったテーマと真剣に取り組んでいる。

呉市は、バリアフリーを積極的に取り入れた観光バリアフリー情報を提供しており、『視覚障がいを持った方』、『聴覚障がいを持った方』、『車いすを利用している方』、『シニア世代の方』、『小さな子どもを連れた方』など、すべての人たちが安心して楽しめる旅行支援に取り組んでいる。

呉駅から海事歴史科学館へ向かう導線においてはアーケードが設置され、商業施設の中央通路を通ることで、距離感をあまり感じさせない一体的なまちづくりの配慮がうかがえた。

現在、港には全長300メートルを超え、1万個以上のコンテナが積載可能である巨大なコンテナ船が停泊し、経済・産業の集積地としても活躍している。

以上が、呉市海事歴史科学館の運営及び周辺整備についての取組の状況である。

5. まとめ

坂町においては、スポーツと併せて芸術文化施設の機能を有するとともに、防災拠点の機能も持たせた多目的施設であることが特出すべき点であると感じた。

本市において既存施設の更新や新設等を検討する場合には、JR線、北関東道や新四号国道など、交通の要衝となっていることから、防災や国土強靱化の観点からも十分に調査研究を行う必要があると考える。

今後の調査研究にあたっては、総合計画に関わる重要な課題であるため、複数の所管が合同で調査研究するのか議員全員で調査研究を進めるのかも含めて、慎重に検討を進めたいと感じた。

呉市海事歴史科学館の管理運営においては、歴史的な資料のわかりやすい展示・体験型ワークショップや歴史解説等ボランティアの高い資質を体感することができた。

本市においては、さらに歴史をさかのぼった時代の貴重な歴史資料が数多く眠っているため、これらを後世に残しながら観光資源としても有効に活用すること

ができるよう展示方法の研究や歴史解説に関わるボランティア等の確保とさらなる資質向上を図るべきであると感じた。

また、呉市の進めるバリアフリー情報を積極的に取り入れたまちづくりと観光ガイド等については、本市においても研究していくべきであると感じた。

なお、今回視察を行った坂町、呉市の両市町においては、平成30年7月豪雨災害により人的被害を含め多大な被害を受けた。現在、急ぎ復旧、復興に取り組んでいるところである。

視察を行った際も、JR呉線は徐行運転や運転本数を減らした臨時時刻表で対応している状況であった。

被災した住民の皆さまに対して、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を願う。